

## 湯婆(ゆ～ばあ)よ、永遠なれ!

## 武内 陶子

Toko Takeuchi

たけうち・とうこ 大洲市出身。松山市立道後中学校から愛媛県立松山東高校を経て、神戸女学院大学文学部総合文化学科卒。91年NHK入社。松山放送局に赴任し、高校野球の実況中継なども担当。その後大阪放送局では、古都の紅葉中継などを担当し、97年から東京でNHKニュース「おはよう日本」7時台キャスター。元気な朝を届けつつけている。

高校生の頃、登校前によく妹と二人で道後温泉の朝湯に出かけた。松山の高校に通うために大洲から出てきていた私たちは、下宿から五分の道後温泉がお気に入りだった。匂いもなくトロリとした感触の道後の温泉は極上で、真冬の朝でも帰りは半袖一枚で充分。芯から暖まった体からはホカホカ湯気が上がるほどだった。

その道後温泉には私と妹が「湯婆(ゆ～ばあ)」と呼び、愛してやまない人たちがいる。毎日通ってくる地元のお婆ちゃんたちである。時にこの湯婆、結構ルールにうるさい。当時はシャワーが二つ位しかなかったのだが、その前で身体を洗っている人とスルドイ声飛び。「そこは上がり湯の人が使うんじゃない、身体はお湯のハタで洗わなかね!」。お湯のそばに座って身体を洗う方がよっぽど石鹸が中に入りそうで心配なのだ、湯婆のルールではそうではないから。又、湯船の真中の湯口で綺麗な湯を浴びようと、スーッとそこに近づいたりするともう大変。たちまち湯婆の逆鱗(びん)に触れることになる。「みんな順番待つとるん

やがね!」。はて、そう言われてふと周りを見回すと、確かに、お湯に浸かっているが並んでいるらしき人たちが五、六人。なるほどなあ。納得。こんな風に湯婆たちは新入りがやつてくると俄然(にげん)はりきった。高校生の私は、このなんとも言えない「湯婆ワールド」が面白くて仕方なかった。

さて、先日松山へ帰郷した折りに久しぶりに道後のお湯に浸かってきた。今ではシャワーも増え、みんなその前で平気で身体を洗っている。湯婆の怒号も聞こえない。湯婆は消えてしまったのだろうか。と、その時である。一人のお婆ちゃんが突然私の目の前で、股割りを始めた。力士も顔負けの柔らかさだ。私は思わず「おおおっ!」と感嘆の声。ますます張り切ってお婆ちゃん。こ、この大胆さは……まさしく道後の湯婆だあ!

よかった。湯婆は健在だった。今もきつとこの湯婆たちが新入りを厳しく指導しているに違いないと確信した私ははっと胸を撫(な)で下ろし、道後のお湯を後にしたのである。